

建設トップランナー倶楽部 国交省幹部と意見交換

担い手確保・育成の課題報告

建設トップランナー倶楽部(代表幹事・米田雅子慶應義塾大学特任教授)の幹事会は5日、国土交通省内で同省幹部との意見交換会を開いた。写真。意見交換のテーマは、地域建設産業における「担い手の確保・育成」。各企業が地域で進めている人材育成や雇用確保の現状と課題を聞き、吉田光市大臣官房建設流通政策審議官は、「われわれの問題意識と近いところにある」と共感。意見交換の成果を今後の施策に生かしていく意向を示した。

意見交換会では、国交省が建設産業活性化会議の中間報告や工程表、改正された公共工事品質確保促進法(品確法)などを解説。大臣官房技術調査課の高村裕平建設システム管理企画室長は、現在の公共事業の執行状況について「入札不調に責

任を押し付けがちだが、実態として目の前の執行は着実に進んでいる。ただし、中長期的な担い手不足は一方で深刻。二つの問題は切り分けて議論すべき」と出席者に理解を求めた。



保・育成をめぐる課題を報告。日本建設技術(佐賀県)の原裕社長は「新入社員が一人前になる5〜7年の期間を地域企業は待てるのか。人材育成には、安定した事業費のみで保護者らの認識を委ねたい」との思いを語った。深松組(宮城県)の深松努社長は「小中学校の授業で、建設企業が防災の知識を伝える機会をつくることはできないか。広い国土を守る長期的な視点で施策を講じてほしい」と提案した。また、中村建設(静岡県)の中村仁志副社長は、現場の週休2日の導入について「日給の技能労働者の中には給与が減ることを心配する声もある」と話す。田村秀夫大臣官房技術調査課長は「工期の設定と合わせて、発注・施工の平準化と単価の上昇が必要になるだろう」と答えた。吉田建流審議官は「建設業に中長期的な見直しを立てるためには『地域維持型契約方式』の活用を広げるといった方法もある。複数年契約や共同受注で先の見通しを付けることにもつながるのではないかと述べた。山田邦博大臣官房技術審議官は「安定した予算を確保したり、価格・工期を適正に設定することが、皆さんの意見に対する共通した回答となるのではないかと締めくくった。

次回フォーラムの テーマ、内容協議

建設トップランナー
倶楽部幹事会

建設トップランナー倶
楽部(代表幹事・米田雅
子慶應義塾大学特任教
授)の幹事会が5日、都
内で開かれた。2014



年度の事業報告・収支決
算、15年度の事業計画・

収支予算を報告したほ
か、15年6月30日に都内
で開かれる第10回建
設トップランナーフ
ォーラムのテーマや
内容について協議し
た。写真。

米田代表幹事は
「来年の6月30日に
開催を予定している
建設トップランナー

フォーラムは10回目とい
う節目を迎える。地方創
生が議論される中、地域
建設企業の果たす役割を
発信していく内容とした
い」と述べた。

10回目となる建設トッ
プランナーフォーラムの
テーマは「地方創生の
トプランナー・十年の
軌跡」を提案。幹事か

らは「時宜にかなってい
る」「未来の建設業の在
り方を問うような問題提
起もしたい」などさまざま
まな意見が出された。

テーマ、内容は来年1月
に開かれる第1回の準備
会で固めることを決め
た。

また、同トプランナ
ーフォーラムの幹事長に

は砂子組(北海道)の砂
修は富山県で行ったことな
り邦弘氏を選出、視察研
究が報告された。